

えがお ふれあい たかめあい きらい かがやく あざ二っ子

横浜市立あざみ野第二小学校
学校だより 夏休み号

第5号 令和6年7月18日発行

学校だよりはホームページにも掲載されています。
学校日記も更新中です。ぜひご覧ください。

青葉区あざみ野三丁目29番地3

TEL 045-902-4866



いじめって何？どうしたらなくせるの？

みんなで考えよう

校長 大幸 麻理

「いじめについて全校のみんなで考えよう」6月の代表委員会の議題です。「いじめって何だろう？」「どうして起きるのだろうか？」「いじめを無くすにはどうしたらいいのだろうか？」ということについて1年生から6年生までの各クラスからの意見をもとに、代表委員会で話し合いました。子ども達はとても真剣に話し合っていました。自分たちの身近で日常的に誰かが傷つくような言動があることに気付き、誰もが安心して過ごせる学校を子ども達が主体的につくっていく力を養っていきたいと思います。7月16日、あざみ野中学校、すすきの中学校ブロックの小中学校の代表児童生徒が集まって、同様の話し合いをし、8月28日には、青葉区の全小中学校の代表児童生徒による「横浜こども会議」が開かれます。その話し合いの様子は、ぜひ後日お伝えしたいと思います。

さて、進級して4か月、新しい人間関係をつくる中で、トラブルや課題がないわけではありません。何か問題が起きるたびに、子ども達の思いを丁寧に聞き取りながら、よりよい人間関係を築く上での大切なことに気付けるような指導をしています。自分も友達も大切にできるような子ども達を育てていきたいと思っています。

ありがとうの意味を大切に

児童支援専任 佐々木国治

明日から夏休みに入ります。夏休みを迎えるに当たって、6年生の道徳の授業で「ありがとうの反対言葉は何だと思いますか？」と尋ねました。「ごめんなさいかな」「どういたしましてだと思います」など様々な考えを発表してくれました。正解は「当たり前」。ありがとうは漢字で書くと「有難う」と書きます。「有る＝存在する」ことが「難し＝難しい」という意味です。有ることが難しい、つまりそれは「奇跡」ということ。奇跡の反対は「当然」とか「当たり前」になります。子どもたちは反対語の意味を知ると「なるほど」とか「納得」とつぶやいていました。

友だちと会えるのが当たり前、太陽が毎朝昇るのが当たり前、生まれてきたのが当たり前……。私たちはつい今あるもの、明日があることを当たり前だと思ってしまうことがあります。でも、そうではなくて、誰かと出会って、話して、食事をして、勉強したり遊んだりできる、こんな当たり前と思うことが実は奇跡の連続だと考えるとどうでしょうと投げかけました。今が奇跡の連続と考えると、たくさんの「当たり前」が「有難く」見えてくると思います。ありがとうの言葉もずっと出てくると思います。そんなことを子どもたちと話しました。長い夏休み。ありがとうの意味を大切にして、今という時間を大切に、34日という長い休み時間を有意義に過ごしてほしいと願っています。